

3 研究実施体制

[概要]

本館の共同研究については、研究推進センターが年度ごとに募集方針を定め、本館研究部の教員や館外の研究者から公募によって申請された共同研究の計画に関して審議を行い、調整を行っている。そして、館外の委員を含む運営会議共同研究委員会において審議が行われ、広く学界の意見を反映させる体制をもって研究推進を図っている。

また、本館の研究においては、大学共同利用機関としての実質性を強化、充実させることを目的に、この共同研究員のほか、客員教員や外国人研究員（長期）の採用と研究プロジェクトへの配置や共同研究員の公募なども行っている。そして、機関研究員をはじめとする非常勤研究員、研究補助員を雇用して若手研究者の育成と研究推進の円滑化を図っている。

研究推進センター長 三上 喜孝

[客員教員]

氏名	委嘱職名（本務校）	担当プロジェクト	期間
小林 淳一	客員教授（東京都江戸東京博物館・副館長）	先端的・開発的研究分野 「在外の日本関係資料の調査および館蔵近世・近代資料の調査研究」	2015.4.1 ～2021.3.31
義江 明子	客員教授（帝京大学・名誉教授）	先端的・開発的研究分野 「ジェンダー視点に基づく博物館展示の研究」	2016.4.1 ～2021.3.31
宮内 貴久	客員教授（お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系・教授）	基盤研究（課題設定型） 「高度経済成長と食生活の変化」	2018.4.1 ～2021.3.31
梅田 千尋	客員教授（京都女子大学文学部・教授）	基盤研究（館蔵資料型） 「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」	2018.4.1 ～2021.3.31
三木 美裕	客員教授（博物館展示コーディネーター）	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト 「日本関連在外資料調査研究・活用」	2011.4.1 ～2021.3.31
工藤雄一郎	客員准教授（学習院女子大学・准教授）	総合展示第1室 「先史・古代」第1テーマ「最終氷期の人々」及びデータベース 「遺跡発掘調査報告書放射性炭素年代測定データベース」	2019.4.1 ～2021.3.31
若林 邦彦	客員教授（同志社大学歴史資料館・教授）	基盤研究1（課題設定型）「近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会」	2019.4.1 ～2021.3.31
三野 行徳	客員准教授（国文学研究資料館・プロジェクト研究員）	基盤研究2（館蔵資料型）「近世後期番方旗本家に関する総合的研究—大番士・儒者杉原家文書を中心に—」	2019.4.1 ～2021.3.31
春日 聡	客員准教授（多摩美術大学・非常勤講師）	基盤研究3（歴博研究映像） 「歴博研究映像の制作・保存・活用—苧麻文化の映像記録化を中心に—」	2019.4.1 ～2021.3.31
家永 遵嗣	客員教授（学習院大学文学部・教授）	基盤研究 「『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究」	2020.4.1 ～2021.3.31
土居 浩	客員教授（ものづくり大学建設学科 教授）	基盤研究 「家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討：変容するモノ・家族・社会」	2020.4.1 ～2021.3.31
高立 理子	客員教授（千葉県立中央博物館・上席研究員）	基盤研究 「定期市からみた地域の生活文化の歴史と多様性に関する研究」	2020.4.1 ～2021.3.31

[外来研究員]

氏名	研究課題	期間
問芝 志保	近代日本の先祖祭祀と文化的アイデンティティ —東アジアとの差異化の観点から—	2019.4.1 ～2022.3.31

[プロジェクト研究員]

氏名	研究課題	期間
瀧上 舞	日本列島における人間・文化の起源とその発展に関する総合的研究	2018.11.1 ～2022.3.31
青柳 正俊	ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究	2019.4.1 ～2022.3.31
川邊 咲子	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築プロジェクト	2019.5.20 ～2022.3.31
箱崎 真隆	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築プロジェクト	2019.7.1 ～2022.3.31
賀 申杰	総合展示新構築プロジェクト（第5展示室「近代」・第6展示室「現代」）	2020.4.1 ～2022.3.31

[科研費支援研究員]

氏名	研究課題	期間
石井 匠	心・身体・社会をつなぐアート／技術	2019.8.1 ～2024.3.31
井上 正望	格・式研究を踏まえた日本古代社会像の再構築	2020.10.1 ～2023.3.31

[リサーチアシスタント]

氏名	所属	研究プロジェクト	期間
三津山智香	小池 淳一	地域における歴史文化研究拠点の構築	2020.4.1 ～2021.3.31
山崎 和	原山 浩介	北米における日本関連在外資料調査研究・活用	2020.4.1 ～2021.3.31
古田 一史	小倉 慈司	古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究	2020.4.1 ～2021.3.31
五味 玲子	横山百合子	近代日本における産業・労働と展開とジェンダー	2020.4.1 ～2021.3.31
近藤 絢音	梅田 千尋 (小池 淳一)	奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成	2020.4.1 ～2021.3.31
森田 大介	家永 遵嗣 (田中 大喜)	『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究	2020.4.1 ～2021.3.31
秦 文憲	青木 隆浩	日本植物文化史の分野横断的な検証と展示手法の再構築	2020.4.1 ～2021.3.31
宮澤 安紀	山田 慎也	家内における死者際祀・祭具の現在とその歴史的検討	2020.4.1 ～2021.3.31
濱島 実樹	福岡万里子	番方旗本家に関する総合的研究	2020.5.1 ～2021.3.31
小風 綾乃	後藤 真	総合資料学の創成	2020.5.1 ～2021.3.31

[研究機器]

歴博では、歴史学・考古学・民俗学の三学協業とともに分析科学をはじめ関連諸科学との学際的な積極的連携をはかり、新しい歴史学の構築創造をめざしている。このため、大学共同利用機関として、館外の研究者との共同研究を通じて新しい研究方法の導入に努めるほか、館内においても先端的な研究に必要な機器を導入することに努めてきた。

主な研究機器は下記の通りである。これらは一部を除いて共同利用に供されている。

研究推進センター長 三上 喜孝

[主要研究機器]

分析機器・設備名		規格		導入年度	主な用途
ICP質量分析装置		パーキンエルマー	NexION2000	2020年度	・同位体比測定のために抽出した鉛、ストロンチウムなどの回収量分析 ・微量元素分析
微小試料採取設備		マイクロサポート	AxisProSS	2015年度	・顔料、剥離漆の採取
マルチコレクタICP質量分析計 (MC-ICP-MS)		Thermo Fisher Scientific	NEPTUNE PLUS	2013年度	・鉛同位体比の測定 (青銅製品などの産地推定等) ・ストロンチウム同位体比の測定 (人骨による生育地推定等)
X線分析顕微鏡		HORIBA (堀場)	XGT-5200SL	2013年度	・元素分析 (錦絵色材等) ・元素マッピング解析
特性X線検出器付低真空電子顕微鏡 (SEM-EDX)		JEOL (日本電子)	JSM-6010LA	2013年度	・極微小部の観察 (種実同定, 種実圧痕, 金属製品等) ・微小部の元素分析
色相・有機質分析システム		Megavision	EV multispectral imaging system	2013年度	・文化財のマルチバンド測定 (13 bands)
分光放射輝度計		コニカミノルタ	CS-2000A	2012年度	・文化財の可視分光測色
赤外線カメラシステム					
内訳	InGaAsカメラ	浜松ホトニクス	C10633	2011年度	・木簡の文字判別 ・漆紙文書の文字判別
	カメラコントローラー	浜松ホトニクス	C2741-62	2011年度	
ハンドヘルド蛍光X線分析計		オリンパス・イノベックス	DP2000 DELTA Premium	2010年度	・大型資料, 館外所在資料の極部元素分析
高温用赤外線サーモグラフィー		JENOPTIK	VarioTHERM basic	2006年度	・炎の逐次温度測定 (鍛冶技術の数値的分析) ・高温時の加工品の温度測定
AMS- ¹⁴ C法支援機器					
内訳	自動AAA処理装置	光信理化学製作所	K-RS-C	2006年度	・炭素14年代測定試料の調製 ・炭素・窒素安定同位体分析試料の調製 ・酸素安定同位体分析試料の調製 ・炭素・窒素濃度の測定
		光信理化学製作所	K-RI-C	2002年度	
	グラファイト精製装置	光信理化学製作所	K-R0-L	2006年度	
		光信理化学製作所	K-RS-EL	2005年度	
		光信理化学製作所	KS-MK-5	2000年度	
元素分析計	Thermo	Flash EA 1112	2005年度		
高精細デジタル顕微鏡		キーエンス	VHX-500	2005年度	・微小部の観察 (金属製品等)

[図 書]

本館の研究棟には「研究用図書室」が、展示場には「入館者用図書室」があり、それぞれの用途・利用者にあわせて、関連諸分野の図書や雑誌等を収集し、利用に供して、館内外の研究者の調査活動の支援を行っている。

図書部会では、例年「本館における図書収集方針」を確認した上で、必要な図書等を選定し、各施設の整備等を進めて、図書利用におけるサービスの向上に努めている。

(1) 2020年度の図書収集方針の概要

当該年度の図書収集方針は、次のとおりであった。(2020年度より下線部を追加した)

- ・日本の歴史と文化について、歴史学・考古学・民俗学及び関連諸学の基本的な図書を収集する。

[図書]

- ・共同研究、展示、資料にかかわる基本図書を収集する。
- ・自治体史（都道府県史・市町村史）、発掘調査報告書・民俗調査報告書、展示会図録類（本館の研究等に関連する博物館・美術館のものは、蔵書の特色であり、重点的・網羅的収集に努める）。

[雑誌]

- ・大学研究紀要、学術雑誌類は、継続誌を中心として主要な雑誌を受け入れる。
- ・雑誌購入は必要最小限とし、電子媒体及び図書館相互協力の有効活用を図る。

(2) 2020年度の活動概要

1) 研究用図書室閲覧室の空間整備

感染症対策を踏まえて、利用者動線・空間配置の見直しを行うと同時に、学術情報媒介機能を高めるための取り組みを行った。閲覧室に、研究交流のために利用者が自由に活用できるとともに、パーテーションとしても利用できる可動式ホワイトボードを設置した。あわせて関連図書（ファシリテーションや発想、表現などの参考書）のコーナーを開設した。加えて、図書室の新しいサービスやイベントを広報するための壁面ホワイトボードを数箇所を設置したほか、マニュアルやフライヤーを配布するパンフレットスタンドを設置した。また、利用者動線上で鮮度の高い学術情報が目に入るよう新着雑誌コーナーと新着図書コーナーも開設した。

2) オンラインサービスの拡充

マイライブラリの運用を開始し、文献取寄申込、貸出期間延長、貸出中図書の予約、図書購入希望、メール通知など、図書室サービスをオンラインで行えるよう拡充した。また、Zoom を用いて、データベースなどの操作画面を提示しながらレファレンスを行えるようインフラを整備した。さらに、館内専用ウェブサイトにおいて、研究に役立つセミナーの開催やオープンアクセスで利用できる電子リソースの公開などの情報の掲載を開始した。

3) 電子リソースの増強と広報

新型コロナ感染拡大を機に、電子リソースの利用環境整備とコンテンツ増強に着手した。自宅やモバイル端末など館外からもアクセスできるよう認証システムを構築した。その上で新たに、電子書籍プラットフォーム「Maruzen eBook Library」を導入したほか、「Oxford English Dictionary」並びに「大漢和辞典オンライン版（ジャパナレッジ）」のデータベースを導入した。また、利用促進のための広報活動も積極的に行った。一方で、電子リソース購入費の確保のため、継続購読雑誌の抜本的見直しに着手した。

4) 特殊本の保存改善と検索性・利便性の向上

研究用図書室第2書庫1層、及び収蔵庫倉庫5階に、江戸期刊本を含む和装本を主とした文献資料を保管しており、特殊本と呼称している。取扱いが一般図書と異なることから、十分に整理されなまま保管され、利用に支障を来していた。これに対して、長期保存のため、資料ごとに形状に合わせた中性紙保存箱を手当てした。また同時に、目録データ及び請求記号を整備してNACSIS-CATに登録し、検索性・視認性を向上させて、研究の利便を高めるとともに、収納スペースの効率化と出納業務の迅速化を図った。

5) 館外利用者への研究調査活動支援

新型コロナ感染症拡大により歴博への来館を控える研究者や遠隔地に居住する研究者のために、所属機関や

居住地域の図書館において本館蔵書が利用できるよう、ILL（図書館間相互利用）受付条件を緩和する措置を講じた。なお、入館者用図書室は、感染症対策のため、2020年度は閉室した。

(3) 今後の課題

新刊書籍の発行部数が減っている中、絶版で入手不能になる前に早急に購入する予算が必要になっている。また、新型コロナウイルスの影響で、通勤・通学が制約されているため、自宅でも利用できる電子リソースやオンラインサービスを適切な予算内で充実化させる必要もある。それには、利用頻度の低い外国雑誌の購入を減らして、新刊書籍の購入や電子化に必要な予算を確保する必要がある。

次年度（2021）は、第2書庫2層に集密書架を設置する計画である。そのことによる業務量の増大と通常の図書業務の両立について検討する必要がある。できれば、業務量の増大に見合った職員の増員が望ましい。特に、和漢古書含む図書の分類・目録や電子化に必要な知識をもった専門的な職員が現状では1人しかいないので、人員の補充が必要だと思われる。

図書担当 青木 隆浩

[図書受入冊数]

	研究用図書室 受入冊数	入館者用図書室 受入冊数	製本雑誌	除籍冊数	累計蔵書冊数
冊数	1,064	59	63	0	358,870